

わが子の教育

ベストな選択を可能にする学校情報マガジン

中学情報編

FREE



学ぼう！ 子育て教室

①思春期の親の心がまえ

花まる学習会代表 高濱正伸先生

②勉強がよくできる「かんたん」照明術

灯りナビゲーター 結城未来先生

私学は我が街のランドマーク

応援したい子どもたち

本物の国際派私学を求めて

育メン芸人
インタビュー

ガレッジセール 川田広樹
さん

「子どもは僕に幸せを与えてくれる。
だから、少しでも長く一緒にいたい」

思春期の 子どもを「メシが食える大人」に育てる

子育ての目標とは何でしょう？それはわが子を経済的・社会的・精神的に自立した大人にすることです。そのため、思春期の子どもを持つ親がすべきことは、メディアでも注目される塾講師・高濱正伸先生に聞いてみました。

自立した大人になるための力

新聞やテレビのニュースでは、毎日のようにいわゆる「引きこもり」や「ニート」の問題が取り上げられます。会社に就職しても、数か月で辞めてしまう若者も増えています。これらは、子育てをしている親御さんにうつとくに関心の高い話題といえるでしょう。もちろん、こういった問題にはさまざまな要因があるでしょうが、高濱先生によれば、社会で生きる力に乏しい大人になってしまふ予兆は、子ども時代に表れるそうです。

「たとえば、算数の文章題を解く時、最初は考える様子を見せて、すぐに『これ足し算でやるの？それともかけ算』などと聞いてくる子がいます。一度ダメだと思いつつ、そこであきらめてしまい、自分の力で考えようとする習慣がついていないのです」

この「自分で考える力」は、子どもが身につけるべき力のなかでもっと大切です。大人になり、就職して入社2～3年で働く意欲が低下してしまうのは、「じっくり考える習慣がない」ことが原因と考えられるからです。「会社を辞めないにしても、低い意欲で働き

続いているようでは、自分で課題を設定したり、進んで仕事を作り出していく「メシが食える大人」にはなれないでしょう

ここで言う「メシが食える」とは、文字通り「日々の食生活に困らない」という意味もありますが、高濱先生によれば、3つの重要な「自立」が含まれると言います。

まずは「経済的な自立」。親の世話をなんざひとりで暮らせる収入を得ること。ふたつ目は「社会的な自立」。公私にわたるさまざまな人間関係の中で、自分の役割を自覚すること。3つ目は「精神的な自立」。自らの価値観・人生観をしっかりと確立し、どんな環境でも仕事を生きがいを持てることです。

「引きこもり」や「ニート」は、これらの条件を満たさないケースと言えます。しかし、会社に入社して「経済的な自立」を果たしても、ほかの2つが果たされていないならば「メシが食える大人」にはならないわけです。

さて、子どもが真の自立を果たすために、身についておきたいのが下で挙げた5つの基礎力です。これらは国語や算数といった教科の学力の土台作るとともに、小学校から大学までの期間を通じて学ぶ力を持続させます。そして、社会人になったときに「メシが食える力」につながっていくわけです。

「メシが食える」ために身につけたい力

子ども時代の能力が社会に出てからどのように活かせるのかを説明します。

1 自分で考える力

勉強や日常生活の中で、自分なりに考え、判断する力。身についた知識や技能を活用する力。物事を筋道立てて考えられる力。

子どもの能力



2 ことばの力

他人の言っていることや文章の内容を的確に理解しポイントをつかむ力。自分の考えを正確にわかりやすく表現し相手に伝える力。

4 試そうとする力

興味・関心のあること、おもしろそうなことに挑戦する力。与えられた課題を解決するためにさまざまな方法を試そうとする意欲。

5 やり抜く力

一度始めたたら、多少の困難があっても最後までやり抜く力。物事に集中して取り組む。コツコツと地道に続けていく力。

思春期の子どもとの接しかた

ここでは、思春期（小学校中学年以降）の子どもならではの特徴と、親の対応のしかたをまとめてみました。

見守る

子どもは体だけでなく、聴く音楽、読む本、友だちなど、さまざまなものが変わります。だから、親も気持ちを切り替えることが大切。「私が言わなければいつまでたってもやらなさい」と思っても、決して口出ししないこと。

●男の子
お父さんは男の本音を話しましょう。「今日はこんなお客様がいて大変だった」といふなどと愚痴をこぼしてみる。もちろん、社会で働くことの厳しさだけでなく、仕事の楽しさも伝えたいものです。

●女の子
女の子は生きるモデルを探している時期。お母さんが女性の先輩として、付き合ってきた人や恋の経験談を話してあげましょう。

まず親が気持ちを切り替える

1

外の師匠にまかせる

子どもは親と少しづつ距離を置き始めていて、何かを言っても反発します。ところが、野球チームの監督、バレエの先生から「勉強しろよ」と言われると素直に聞くものです。こういった「外の師匠」を見つめましょう。

親は口出ししない

2

鍛練させる

勉強やスポーツなど、この時期の子どもは鍛えてもらいたがっています。厳しさに打ち勝ちたいという欲求を持っているので、それを活かしてあげましょう。中学受験や英語検定、漢字検定へのチャレンジがよい機会に。

受験・検定でやる気を出す

4

学習法を身につける

自分の弱点を発見し、それを克服していく時期。ドリルや参考書を買いそろえるより、ノートの使い方を中心に中学校につながる学習法を身につけさせましょう。適切な方法を指導してくれる塾を探すのもひとつの手。

ノートの取りかたが大切

親の心がままえが大切

それでは、親としてどのような心がままえを持てばいいのか。ここでは小学校高学年以降の思春期の子を持つ親を対象に説明します。

「私が言わない」と、いつまでたってもやらないんですよ」と言つて、わが子から離れられないお母さんがよくいます。これが子ども成長を阻害する原因となります。

よかれと思ってわが子をトラブル回避させることは、愛情あふれる行為のようですが、そんなふうに育てられた子どもが、社会に出たるどうなるかは目に見えています。

高濱先生は、10歳までの子どもは「オタマジャクシ」で、10歳以降に「カエル」になるようなもの、と言います。別の生き物へと変化したのだから、親の接しかたも変えるべきというわけです。

『カエル』の子どもにとつても、心のよりどころとなるのは家庭です。お母さんの笑顔

やおいしいご飯があり、逃げる場所があるからこそ、外でがんばれるのです

また、親とくにお母さんの置かれている環境にも注意が必要です。核家族化が進み、ひとりで子育てをするケースが多くなっています。この孤独感が原因で、イライラしたり、そのストレスを子どもにぶつけたりしてしまったことがあります。

「かといって、夫が悪いわけではありません。あくまで『時代的なもの』と認識することが大切です。お父さんができることとして、お母さんとねぎらいの言葉をかけてあげましょう。女性は自分の言葉を受け止められうだけで、ホッとするものです」

夫婦でわが子や家庭のことを真剣に考えているのに、すれちがつてしまふことはよくあります。同じ夫婦でも、男と女は別の生き物として、家庭の外に向けて風穴を開けていくとよいでしょう。ストレスが発散できれば、子どもの関係もうまくいきます

1 課題解決力

与えられた業務の遂行はもちろん、新たな営業先の開拓、業務の改善、トラブルへの対応などの課題を解決する力。効率的・合理的にゴールにたどりつける力。

2 コミュニケーション力

ビジネス文書の作成、営業先のセールストーク、取引先へのプレゼンテーションなどをこなす力。自分の考え方や情報を的確に伝え、相手を動かすことのできる説得力。

3 傾聴する力

マーケティングで、顔の見えない相手を想い浮かべながら、商品の販売戦略を立てる力。組織やチームの中で自分がどういう役割を果たすべきかをイメージできる力。

4 チャレンジ精神

新しい仕事に意欲的に取り組み、成果を残す力。日々のルーチンワークの中での、自分なりのチャレンジテーマを設定し、改善点などを見つける力。

5 課題遂行力

就職前に抱いていたイメージと異なる仕事もやり抜く力。自分にとって理不尽な状況に直面しながらも、課題をやり遂げる力。地味で泥臭い仕事を続ける精神力。

大人の能力

→

2 ことばの力

→

4 試そうとする力

→

5 やり抜く力

→

教えてくれた人



花まる学習会 代表
高濱正伸先生

東京大学・同大学院修士課程修了。1993年、「作文」「読書」「思考力」「野外体験」を重視した学習教室「花まる学習会」を設立。『わが子を「メシが食える大人」に育てる』(廣済堂出版)など著書多数。